

令和3年3月 南魚沼市議会定例会
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質問者	日程
1	4	吉田光利	8日 (月)
2	14	佐藤剛	
3	7	勝又貞夫	
4	11	清塚武敏	
5	5	中沢道夫	
6	20	塩谷寿雄	9日 (火)
7	3	目黒哲也	
8	16	中沢一博	
9	9	桑原圭美	
10	2	梅沢道男	
11	13	岡村雅夫	
12	22	阿部久夫	10日 (水)
13	1	大平剛	
14	8	永井拓三	
15	10	塩川裕紀	
16	15	寺口友彦	
17	6	田中せつ子	
計		17名	

【質問方式】（質問制限時間は、いずれも答弁時間を含め 60 分）

一括質問一括答弁方式： 全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。
（初回は登壇して行い、質問回数は 3 回まで。）

一問一答方式： 質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

複合型一問一答方式： 一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。

質問 順位	質問 内 容
1	建設業の技能者不足について
議席	
4	
吉 田 光 利 (一問一答方式)	<p>ハローワーク南魚沼によると、令和2年12月の南魚沼市湯沢町管内の有効求人倍率は2.34倍であり、産業別、規模別及び季節要因から一概に言えないが、コロナ禍の中、求人数が求職数を大きく上回る高い水準にある。また、令和3年3月高校卒業者の状況は、ほとんどの生徒が就職内定しており、喜ばしいことである。</p> <p>特に人手不足が深刻なのは、人々が生活するためにはなくてはならない建設業である。大工、左官、屋根板金職人をはじめとする多くの技能スペシャリストは、全国的に高齢化と人手不足が常態化している。南魚沼市管内の多くの事業者も例外でなく、給与・福利厚生等の待遇面や働く職場環境の見直しを行い、あらゆる面で改善に向けた経営努力を重ねている。しかしながら、現状は職人の確保と育成には厳しい状態が続いており、将来展望に大きな不安を感じている。</p> <p>そこで以下に市長の所見を伺う。</p> <p>(1) 職人不足及び後継者不足は業界の大きな課題である。行政として支援策の考えは。</p> <p>(2) 新型コロナウイルス感染症収束後に備え、外国人の技能実習及び特定技能の受入れ支援を積極的に行うべきではないか。</p> <p>(3) 新卒者及び若い世代に「魅力ある職場と職人」のアピールを、官民一体で発信すべきではないか。</p>

質問 順位	質問 内 容
2	市民が安心できる持続する地域医療と健康と医療のまちづくりをどう進めるか
議席	
14	(1) 自治体病院の役割と病院経営安定という課題を抱えて、医療対策推進本部が目指す医療体制は。
佐藤	(2) 医療環境と経営改善に向けたタスクフォースの検討状況について ①市民病院の経営改善に向けた方向は見えてきたか。 ②ゆきぐに大和病院の改修、改築の方向性はどうか。 ③城内診療所の今後についての検討はされているか。 ④医師確保の手法と可能性について見通しはどうか。
剛	(3) 医療対策推進本部としてのまとめ方とその後のタスクフォースをどう進めるか。 (4) 病病連携、病診連携で地域全体の中で医療を完結する形をつくるのが持続する医療体制に必要でないか。 (5) 今までのこの地で行ってきた医療理念を生かし、更に医療を充実させることでの独自性ある「まちづくり」を期待するが、医療を1つの中心に据えた「まちづくり」のビジョンはあるか。
(一問一答方式)	

質問 順位	質問 内 容
4	<p>1 除雪対策の充実で市民の暮らしをどう守るか</p>
議席	
1 1	
清 塚 武 敏	<p>昨年末からの集中降雪は、関越自動車道の立ち往生をはじめ、除雪関連の事故や被害が多く発生した。市でも災害対策本部の設置を行うなどの大雪になった。このような状況の中、豪雪時の道路除雪や、過疎や高齢化が進んだことによる除雪労働力不足、また、来年から屋根雪除雪時の安全帯着用が厳格化されるなど課題がある。雪国の市民の安全と、生活道路環境をどう守っていくのか伺う。</p> <p>(1) 除雪中の事故防止と、住宅の屋根雪下ろしを行う際の安全確保をどう進めていくのか。</p> <p>(2) 雪処理の担い手、業者を含めた労働力、ボランティア等の人材の安定確保が、地域ごとに必要と考える。今後、行政がどのように進めていくのか。</p> <p>(3) 消雪パイプ路線でも水量不足等で十分な消雪ができない場合がある。機械除雪併用による柔軟な道路除排雪体制が必要ではないか。</p> <p>(4) 除雪費の安定確保が除雪体制の充実につながる。国、県にどう働きかけていくのか。</p> <p>2 市民バスの目指す姿は何か</p>
(一 問 一 答 方式)	<p>地域公共交通網形成計画が昨年策定され、地域の課題や公共交通の現状・問題点などを踏まえ、市が目指す将来都市像を実現する上で持続可能な公共交通網のビジョン、目標及び施策が示された。目指す姿の概要はいかに。</p> <p>(1) 利用者数、収益率も低い。地域を巻き込んだ運行見直しや利用促進をどう進めていくのか。</p> <p>(2) 対象エリアの栃窪・岩之下、後山・辻又コースの地域の実態に即した、スムーズに移動できる新たな交通サービスの実証事業の概要を伺う。</p>

質問 順位	質問 内 容
5	1 新型コロナウイルス感染症への対応について伺う
議席	(1) PCR検査を抜本的に拡充すべきではないか伺う。
5	①高齢者施設、医療機関での職員も含めた積極的な検査に踏み出すべきではないか伺う。
中 沢 道 夫 (一問一答方式)	②検査費用を国が全額負担するよう求めるべきだと思うが、見解を伺う。
	(2) 新型コロナウイルス感染症による医療機関の減収支援と医療対策について伺う。
	①令和2年度の市民病院の純損失が拡大した要因は新型コロナウイルス感染症による減収ではないのか、見解を伺う。
	②減収は病院独自の努力で解決する問題ではないと考えるがどうか。国に減収補填を求めるべきではないか、見解を伺う。
	③医療対策推進本部では、市民病院が市民の健康や命を守るためにどういう役割を果たすのか議論してもらいたい。病院の効率優先の話にならないようにということを指摘したい。見解を伺う。
(3) 新型コロナウイルス感染症に伴う市民の苦難軽減施策について伺う。	
①国民健康保険税の軽減と子供の均等割廃止を決断すべきではないか伺う。	
②就学援助制度が使いやすくなるよう、また援助項目も拡充すべきだと考えるが、見解を伺う。	
③生活保護申請の際に扶養照会が高い壁になっている。当市での運用について伺う。	
2 高齢者の医療圏域外及び県外への流出について伺う 高齢者が、施設入所などで医療圏域外や県外に流出している状況をどうするのか。その施策を示すことが必要ではないか。その検討をどこで行うのか伺う。	

質問 順位	質問 内 容
10	1 雪下ろし時の命綱固定器具設置補助金制度の創設を
議席	
2	南魚沼市においても、今冬の雪下ろしなどの除雪作業に係る事故の発生状況を鑑みると、県が令和3年度予算に計上した命綱固定器具の設置補助金に連動した、補助制度の創設が喫緊の課題と考えるが、市長の考えを伺う。
梅 沢 道 男	2 医療機関の連携と医療情報の共有化に向けた「うおぬま・米ねっと」の推進方針について 南魚沼市がその中心となり推進してきた「うおぬま・米ねっと」のこれまでの成果と、今後の介護情報の共有も含めた「うおぬま・米ねっと」に対する南魚沼市の推進方針について伺う。
男	3 教師の多忙化解消に向けた取組の推進について (1) 学校現場の働き方改革の実現に向けた、国の「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」に基づいた「公立学校の教師の勤務時間の上限に関する方針」の早期の策定と共に、これに実効性を持たせるためにも「南魚沼市立学校管理運営に関する規則」に勤務時間上限規定を追加する改正を急ぐべきと考えるが、教育委員会の考えを伺う。
(一 問 一 答 方 式)	(2) 学校現場の多忙化解消に向け配置されたスクールサポートスタッフについて、国は令和3年度も配置拡充の方針を打ち出したが、補助率等の変更も予定され、自治体の負担増も予想される。しかし、コロナ禍での対応も含め、学校現場では配置の継続が必須の状況である。このスクールサポートスタッフの令和3年度配置に向けた教育委員会の方針について伺う。

質問 順位	質問 内 容
1 2	1 農業政策について
議席	
2 2	
阿 部 久 夫	<p>農林水産省の全国の米の生産数量目標によると、2021年産の需要に見合った適正な生産量は679万トン、2020年産米より56万トンの減産が必要で、過去最大の下げ幅となった。</p> <p>それを受け、県では2020年の生産実績59万5,400トンから1割以上の減産が必要な52万トンとした。面積換算で9万5,500ヘクタールである。</p> <p>当市においては、長年守ってきた特Aが2017年に陥落したが、翌年には再び特Aに復帰し、1等米比率も令和元年産米26%から令和2年産米は76%へと回復した。このように、農業関係者や生産者の努力で米生産に取り組んできただけに今後の米政策を大変危惧している。</p> <p>ちなみに当市の作付面積は令和2年度4,940ヘクタールだったが、令和3年度は4,474ヘクタールの目標で約10%減となり、500ヘクタールが主食米から非主食米、園芸への転換が必要とのことである。農業者はかつてない大きな不安を抱いている。</p> <p>今後の農業政策について4点伺う。</p> <p>(1) 今後の需要に応じた米生産をどのように捉えているか伺う。 (2) 中山間地耕作者の支援は。 (3) 農地集積に向けての農地提供者の支援を。 (4) 小中規模農業者や新規就農者の支援強化を。</p>
(一問一答方式)	<p>2 防災士の養成について</p> <p>現在、自助・共助・協働を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待されている。防災士とは、あまり聞き慣れないが、そのための十分な意識と一定の知識、技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人である。</p> <p>現在、各市町村も力を入れており、全国で20万4,000人が認証されている。県内でも13市町村が防災士養成に取り組んでいる。</p> <p>全国で大きな災害が毎年多く発生している中、当市においても、冬、夏の自然災害が多発している中、地域防災力の向上を図っていくためにも人材育成を進めていくべきと考えるが、見解を伺う。</p>

質問 順位	質問内容	
13	<p style="text-align: center;">10年先を見据えて除雪・克雪の方策を</p>	
議席		(1) 市道除雪の現状と今後の方策は。
1		(2) 住宅除雪援助の現状と今後の方策は。
<p style="text-align: center;">大 平 剛</p> <p style="text-align: center;">(一問一答方式)</p>		

質問 順位	質問 内 容
16	<p style="text-align: center;">令和3年度施政方針について</p> <p>(1) 新型コロナワクチン接種クーポン券に商品券をつけて接種を 勧奨する考えはないか。</p> <p>(2) 第3次南魚沼市スポーツ推進計画に公共施設等総合管理計画 の個別施設計画をどう生かすのか。</p> <p>(3) 市道の舗装状況を速やかに総点検して補修し、災害に備える べきではないか。</p> <p>(4) 特定地域づくり事業協同組合制度にならった多業種労働とい うマルチワークで若者を安定的に雇用する仕組みづくりを始め るべきではないか。</p> <p>(5) 魚沼地域定住自立圏共生ビジョン第2期計画策定に新たなご み行政をどう取り入れるのか。</p>
議席	
15	
寺 口 友 彦	
(一問一答方式)	

質問 順位	質問 内 容
17	<p>1 地域福祉計画の安心・快適な生活環境づくりについて</p> <p>第2次南魚沼市総合計画の総合的な人口減少対策の推進として、移住・定住施策に取り組んでいるが、昨年12月16日からの集中降雪では関越自動車道で大規模な車の立ち往生が発生し、そのニュースは全国放送され、雪国のイメージダウンにつながったのではないかと心配だ。当市の人口減少は加速しており、65歳以上の高齢化率は33.5%に達している。高齢者世帯や空き家も増え、雪による人的被害や建物被害も発生している。豪雪地特有の雪への負担軽減のための除雪支援について伺う。</p> <p>(1) 高齢者や要配慮者世帯などへの住宅除雪援助事業は、対象要件が厳しい。上限を24時間から40時間にしたが、更に利用しやすく拡充できないか。</p> <p>(2) 南魚沼市社会福祉協議会では除雪ボランティアによる除雪作業を行っているが、要請に応えきれない現状と聞く。市で有償ボランティアを募集し、危険な空き家にも対応を。</p> <p>(3) 水量不足の消雪パイプが増えているが、機械除雪に頼らず修繕を進める考えか。</p> <p>(4) 閉じこもりがちな冬場も高齢者の安全な活動が守られるよう歩道除雪の拡充を。</p> <p>2 誰もが安心して住み続けられる持続可能な交通施策について</p> <p>人口減少と少子高齢化が進む中で、市民が自由に活動し、人との交流を楽しめることは健康寿命延伸のためにも必要不可欠であり、路線バスと市民バスの役割は大きい。医療のまちづくり検討委員会の提言を受け、医療対策推進本部のまちづくりタスクフォースで、交通手段の確保を検討しているが、現状の不便さを訴える声が増しており、改善を続けながらまちづくり全体の検討を進めるべきと思うが、所見を伺う。</p> <p>(1) 市民バスでも路線バスでも、市民病院の受付に間に合わない場合がある。大和病院と市民病院の巡回コースが必要では。</p> <p>(2) 高齢者運転免許証自主返納支援事業は昨年度より利用が減っている。冬場の交通手段及び安全確保のためにも、事業の見直しや拡充が必要と思うが、検討しているか。</p>
議席	
6	
田 中 せ つ 子 (一 問 一 答 方 式)	